

日本ラカン協会第15回大会プログラム

日時 : 2015年12月13日(日) 9:00~18:00

場所 : 専修大学神田校舎7号館731教室(3F)

(〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8)

- 水道橋駅(JR)西口より徒歩7分
- 九段下駅(地下鉄/東西線、都営新宿線、半蔵門線)出口5より徒歩3分
- 神保町駅(地下鉄/都営三田線、都営新宿線、半蔵門線)出口A2より徒歩3分

大会参加費 : 無料

1. 研究発表 9:00~12:00 (発表時間30分、質疑応答15分)

9:00-9:45 日高直保(上智大学大学院総合人間科学研究科心理学専攻)

「ラカンと現象学——「転移」をキーワードに」

司会: 福田肇(樹徳中高一貫校)

概要: ラカンはセミナーⅧにおいて、「転移」概念を主題的に扱った。そこではラカンは転移を「奇数性-不等性」(disparité)と規定し、転移を「間主観的」(intersubjectif)な現象と据える考えを退けた。しかし、そのことは転移にたいする現象学的アプローチをすべて反故にするということを意味するのだろうか。私たちは、「間主観性」を排し「奇数性-不等性」によって理解されるような転移のラカンの概念を明らかにしたうえで、現象学的方法がなおも転移という現象を記述する余地を残しているかどうかを問いたい。

9:50-10:35 三宅由夏(東京大学大学院人文社会系研究科)

「前エディプス期の政治性——ジャメイカ・キンケイドの初期作品を読む」

司会: 福田大輔(青山学院大学)

概要: ジャメイカ・キンケイド(1949-)は、カリブ海のアンティーガに生まれ、渡米後に執筆活動を始めたポストコロニアル文学作家として知られている。とりわけ初期の作品には、前エディプス期が極度に理想化されたかたちで記述されており、「母娘関係」につよく執心する作家の痕跡がみられる。本発表では、散文詩集『川底に』から長編小説『わたしの母の自伝』にいたるまでの初期作品における、前エディプス期の政治性について明らかにしたい。

10:40-11:25 萩原優騎(東京海洋大学)

「精神分析家の万能感?——ラカン派の社会分析への疑問」

司会: 平野信(こころの分析室・北小田原病院)

概要: ラカン派の精神分析の観点から現代社会の諸相を論じる研究が、日本でも多く見られるようになった。それらの研究は、精神分析の視点によって明らかになる事柄を示し、さらに問題解決の方途も示しているという点で、一定の意義はある。しかし、倫理学や社会学における各種の先行研究との関連で見た場合、疑問を抱かざるを得ないものも散見される。そのような疑問が生じる理由と、そこに見られる問題点を検討し、今後の可能性を展望する。

11:30-12:15 久保田泰考 (滋賀大学保健管理センター)
「反復・エントロピー・転移—あるいは、健忘と死の欲動について」
司会： 磯村大 (金杉クリニック)

概要： 50年代のラカンは反復について「転移の経験の歴史へ向かう時間性」” la temporalité historisante de l'expérience du transfert”と語っている (Ecrits, P.318)。反復が無意識を基礎づけるとすれば、純粋に反復のみによって構成される転移関係はありえるのか？こうした問いを、ドゥルーズ「差異と反復」第二章《死の本能、対立と物質的反復》を参照しながら、以下のようなSF的思考実験に接合し、考察を試みる：「エロスとムネモシユネとの相関関係 la corrélation d'Eros et de Mnémosyne にとって代わる、「健忘症に陥った記憶なきナルシシクな自我」 un moi narcissique sans mémoire, grand amnésique としてのサイボーグと、「愛なき脱性化された死の本能」 un instinct de mort sans amour, déssexualisé を印付ける精神療法家の関係はどのようなものか。

2. 昼休み 12:00～13:00

*この時間に理事会が開催されますので、理事の皆さんはご参集ください。

3. 総会 13:00～14:00

- ① 議長選出
- ② 会務報告… 論集刊行に関する報告など
- ③ 決算 (2014/2015 年度) 審議
- ④ 予算 (2015/2016 年度) 審議
- ⑤ 次年度活動計画について

※ 役員会選挙開票

役員選挙投票は総会開始時(13:00 時)まで

4. シンポジウム 14:00～18:00

日本ラカン協会 2015 シンポジウム
〈欲望機械と欲望の弁証法：ガタリ、ドゥルーズ、ラカン〉
司会： 立木康介 (京都大学)

「ガタリ＝ドゥルーズ——『アンチ・オイディプス草稿』をめぐる」

提題者： 佐藤嘉幸 (筑波大学)

「『差異と反復』と『アンチ・オイディプス』における欲望の概念」

提題者： 財津理 (法政大学)

「ラカンにおける「欲望」とその「対象」：「エディプス」的布置とその再編成」

提題者： 原和之 (東京大学)

各提題 40 分、議論・質疑応答 5 分

※ なお、大会終了後、有志による懇親会を予定しております。
お時間に余裕のある方は、こちらの方にもご参加ください。